参考：個別ヒアリング結果概要

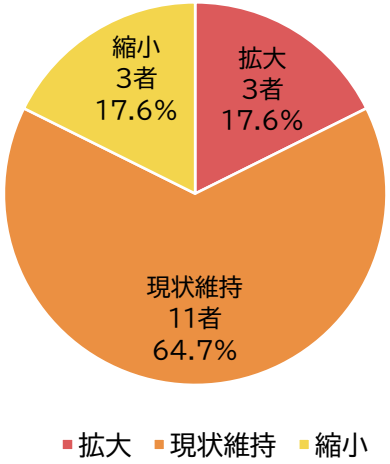
参考資料

青果・仲卸業者（全17者）のヒアリング結果概要

- 直近の業況は「現状維持」が過半数を占める一方、事業継続には後継者不在などの課題があることが確認された。
- コールドチェーン対応や機能集約を行うことで、産地や量販店からから「選ばれる市場」として競争力を維持・強化していく必要性が指摘された。
- 再整備にあたっては、市場利用ルールの見直しや働く環境の改善を通じて、将来にわたり柔軟に活用できる市場とすることが望まれている。

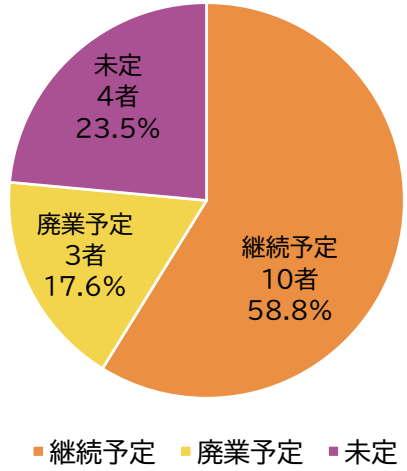
直近5年間の業況の変化

- 「現状維持」が11者と全体の60%以上を占めているが、「拡大」「縮小」のいずれも3者おり、事業者によって状況が異なっている。



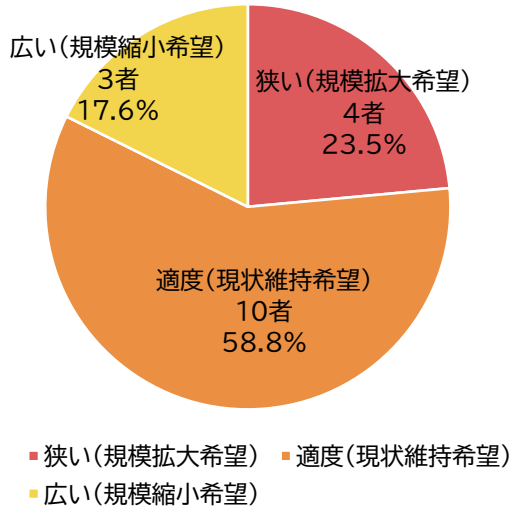
再整備後の継続意向

- 「継続予定」が10者と半数以上を占める一方で、後継者不在による事業継続に不安を抱える事業者も少なくない状況である。



仲卸売場の充足状況

- 仲卸売場の売場面積については「適度」と評価する事業者が10者と多い一方で、規模拡大を希望する事業者も4者あり、各社の事業規模を踏まえた施設規模設定が求められる。



参考：個別ヒアリング結果概要

＜個別ヒアリングの主な意見＞

■ **流通構造・導入機能について**

- 他市場との競争力を維持・強化できるハード・機能水準を整備する上でも、コールドチェーン化は必要である。
- 卸売場・仲卸売場とも、品温管理と作業環境の観点から閉鎖型施設の整備が望ましい。
- 利便性や費用面の課題から、仲卸業者の共同冷蔵庫は不要である。 ⇔ 施設集約の上で共同利用できる冷蔵施設を再整備して欲しい。
- せり場から仲卸売場までの荷物の自動搬送など、省人化に寄与するシステム導入についても検討してほしい。
- 学校給食対応のため、荷捌き場の定温化や閉鎖型・HACCP対応施設を整備したい。
- コンパクト化を進めつつも、駐車場・冷蔵施設等は将来拡張が難しいことを踏まえ、一定の余裕を持った規模を確保すべきである。
- 再整備を機に、残置品・量販店買荷の保管など卸売場利用ルールは明確化した方がよい。

■ **配置について**

- 卸売場を中心において、周辺の仲卸売場が同距離でアクセスできるなど、効率的な動線となる売場配置が望ましい。
- 仲卸店舗の区画は一律の大きさでなくてもよく、複数の広さでバリエーションがあってもよい。
- 低温売場やバナナ加工場は、コールドチェーンの確立の点からも、卸売場の隣接スペースに集約されるとよい。
- 売場や事務所の縮小により生まれる余剰スペースの一部は、仲卸業者との共用スペースや見学者向けスペースとして開放することが望ましい。
- 屋根付き荷捌き場はドライバーからの評価が高く、再整備後も十分な規模を屋根付きで確保すべきである。

■ **荷捌き場・積込所**

- 区画内に荷物が収まらず、通路に商品を置くことが常態化している。仲卸業者専用の荷捌き場・積込所を確保したい。
- 雨天時でも荷捌き・積込作業が安定して行える屋根付きスペースの確保が必要である。

■ **その他の意見**

- 働く環境の改善は重要な課題であり、粉塵や夏の暑さ対策など、従業員の健康に配慮した作業環境を整備してほしい。
- 岡山市場らしさとして地場果実の取扱いの強化と対外的なPRを推進してもらいたい。
- 岡山の立地特性（九州、舞鶴港から片道約4時間）を活かし、運送会社と連携した物流ハブ拠点機能を強化したい。
- 売場内にキッチンを設け、試食提供・イベント・産地PRなどに活用できるシンボル的な場を導入したい。
- 近年増加しているレンタルパレットを含め、パレット置き場の確保や管理体制について整備すべきである。

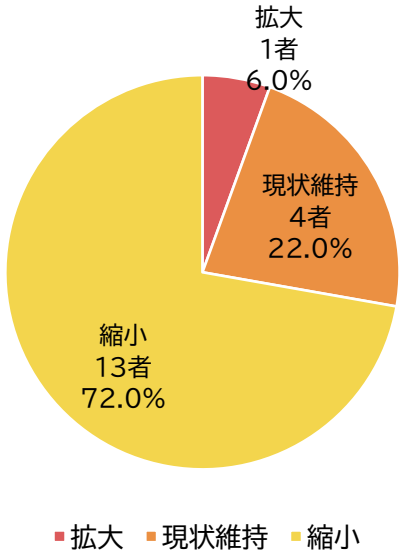
参考：個別ヒアリング結果概要

水産・仲卸業者（全18者）のヒアリング結果概要

- 多くの店舗で直近5年間の業況を「縮小」と回答しており、水産物の消費減少や取扱量の減少、取引先の変化などが影響していることが確認された。
- 施設面では、夏場の高温による品質悪化いった課題から、温度管理の徹底とコールドチェーン対応、閉鎖型施設化の必要性が強く指摘された。
- 活魚売場の配置・運用、荷捌き場の複数目的利用、場外大手事業者の参入などを踏まえ、市場全体の機能強化を目指すことが望まれている。

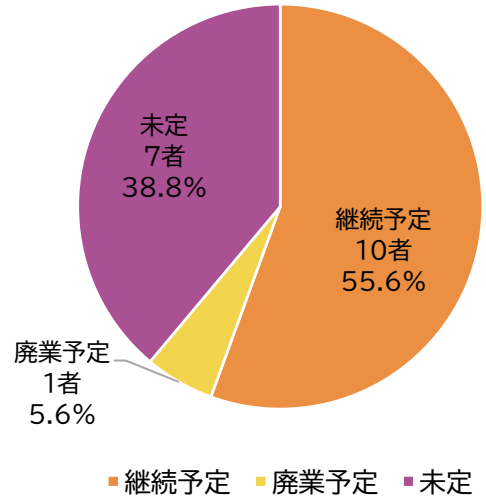
直近5年間の業況の変化

- 水産物の消費減少や取扱量の減少、取引先の変化などを背景に「縮小」が13者と、全体の約70%を占めている。



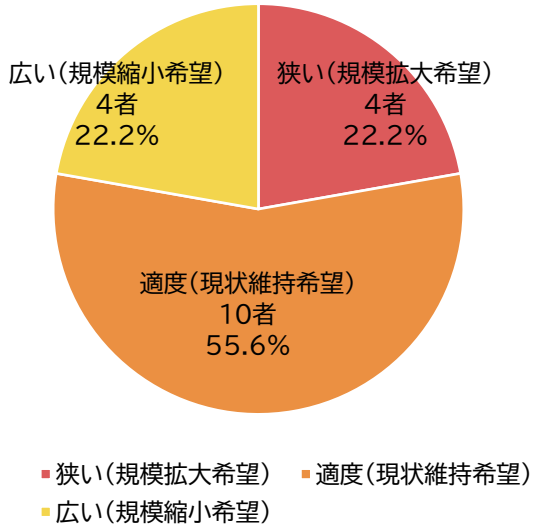
再整備後の継続意向

- 「継続予定」が10者と半数以上を占める一方で、後継者不在による事業継続に不安を抱える事業者も少なくない状況である。



仲卸売場の充足状況

- 仲卸売場の売場面積については「適度」と評価する事業者が10者と多い一方で、規模拡大・縮小を求める意見もそれぞれ4者ずつあり、各社の事業規模を考慮した施設規模設定が求められる。



参考：個別ヒアリング結果概要

＜個別ヒアリングの主な意見＞

■ **流通構造・導入機能について**

- 夏場は市場内温度が高く、魚の品質悪化に加え氷の消費量増加が大きなコストになっており、施設の温度管理が必須である。
- 品質管理・労働環境・鳥や小動物の侵入対策を考えれば閉鎖型施設とすることが望ましい。
- 共用冷蔵庫の検討にあたっては、事業者ごとに区画を分けるなど、盗難・トラブル防止の仕組みが必要である。
- 卸売場は業務時間後に関西方面への転配送等に利用するなど、複数目的利用を検討すべきである。

■ **売場配置について**

- 仲卸売場に冷蔵施設が隣接していることが望ましい。また、仲卸売場内に火を使う加工スペースが確保できることが理想である。
- 仲卸店舗の区画は一律の大きさでなくてもよく、複数の広さでバリエーションがあってもよい。
- 仲卸売場の区画を問わず、屋根付きスペースの使用ルールや配分の公平性を確保してほしい。
- 卸売場・荷捌き場・冷蔵庫を隣接させ、一体的な動線とすることが望ましい。
- 屋根付き荷捌き場は、実態に即した高さ・形状の荷下ろし・荷捌スペースに見直すべきである。
- 活魚売場は血や臭いが発生するため、卸売場とは近接させつつも区画を分けるなど、影響を抑える配置が必要である。

■ **荷捌き場・積込所**

- 小分け・ピッキング・箱詰めなどの作業負荷が大きく、専用スペースや人員が必要である。
- 量販店向け配送などにあたっては、トラックが縦列駐車できるだけのスペースが確保されているとよい。

■ **その他の意見**

- 一般来場者と買出人との区別など市場入場者の管理のあり方は再整備を機に整理が必要である。
- 入荷ピークや車両台数を踏まえ、荷下ろし場を荷受専用とするだけでなく、午前中以降は物流拠点等として利用を行うことも検討したい。
- 活魚は「当日〆て当日届く」ことに価値があり、市場内での作業は必要であるが、商品価値に対して労力が大きく課題である。岡山県の食文化として活魚需要が根強く、今後の活魚対応のあり方は検討が必要である。

参考：個別ヒアリング結果概要

花き・仲卸業者（全3者）のヒアリング結果概要

- 直近の業況は「現状維持」の他、一部ではコロナ禍等の影響による「縮小」がみられ、事業者によって状況が異なっている。
- 再整備後も事業継続予定の回答がみられる一方で、後継者不在により、事業継続に不安を抱える事業者もいる状況である。
- 売場面積は充足している一方で、温度管理設備や作業動線の見直しにより、品質管理と労働環境の両面での水準向上が期待されている。
- 需要変化を踏まえた品揃えや販路の工夫とあわせて、再整備を契機に「選ばれる売場」としての競争力を維持・強化していくことが求められる。

＜個別ヒアリングの主な意見＞

■ 流通構造・導入機能について

- 夏場の温度管理対策が重要である。冷蔵庫以外は20℃～30℃で管理できれば良い。
- 卸売場の夏季の低温管理は必須ではないが、冬季の加温は必要である。また、せり台付近は温度管理を行いたい。
- 転送や商品の積替えは、3年前から、山陰・岡山県北から岡山市場を経由して関西や広島方面に出荷する商品が出てきている。

■ 売場配置について

- 入荷から出荷まで一方通行で、効率的な機能集約型のレイアウトを希望する。
- 店舗前の品出し兼作業スペースは現状と同程度必要である。
- 花きは海風の影響を受けやすく、また、臭いがつくと商品価値が低下することから、十分に配慮した上で花き棟を配置してほしい。
- 卸売場と保温売場棟や空地（仮置き場）は屋根で接続し、一体的に利用できる配置とすることが望ましい。

■ その他の意見

- 市場全体として荷物があってこそなので、集荷力を強化し、他市場に負けない品揃えが必要である。
- 枝物を小売が使用するなど「花の使いかた」が変わってきており、商品の形に対するニーズも変化している。
- 岡山市場に入ってくる地場のリンドウ等は規格ごとに十分な物量がなく扱いづらい。
- 固定式台車の減少と移動式台車の増加により、売場として常時必要となる面積は減少してきている。

参考：個別ヒアリング結果概要

関連組合・買参組合ヒアリング結果

関連組合

- 夜間営業の店舗誘致や農産物直売所のような**一般客が訪問しやすい施設の拡充によるにぎわい創出が必要**である。
- 市場の立地を活かし、名古屋方面、九州方面の**中継拠点としての機能強化が重要である（関連の運送業者として連携可能）**。
- 関連事業者も場内の共同冷蔵施設の利用ニーズが一定程度あり、積込所と一体となった効率的な整備が望ましい。
- **小売・飲食等の一般向けエリアと、物流・事務所等の業務向けエリアを区分け**した配置が望ましい。

水産買参組合

- 店舗を持たない売買参加者が、**場内で一次加工できる施設**が整備されることが望ましい（組合での共同利用もあり得る）。
- 夏場のせり場の活魚の品質保持が課題である。閉鎖型施設として、**全体が低温管理されることを希望**する。
- 卸売場から荷物を引くことが多いため、**買参積込所と卸売場との距離感や動線が重要**である。
- **屋根付きの積込所**は雨天時の作業効率に直結するため、場内でピッキングを行う売買参加者の状況も踏まえて十分な規模を確保してほしい。
- アラや発泡スチロールなどの**廃棄物処理施設の運用方法を改善**してほしい。

青果買参組合

- **物流センター機能**を導入し、将来の配送課題を見据えた**共同配送システムの構築**を検討すべきである。
- 駐車場は、**常時使用する事業者のための契約区画**と、**使用頻度の低い事業者のための共同スペース（組合貸し）**の2パターンを確保してほしい。
  - 共同スペースについては、**荷下ろし場を早朝の時間帯だけ買参積込所として使用する**（現在と同じ）方法で問題ない。
  - 仲卸売場周辺に一次的に車を止めて、荷物をピックアップして回ることもある。**通路沿いに短時間の駐車が可能なエリア**があると便利である。
- 現在は、卸売業者・仲卸業者が、売買参加者の駐車場までサービスで配送してくれている。**配送サービスが今後も維持されるかどうか**で、駐車場の使い方や場所の取り方は変わってくる。
- 食品を取り扱う市場として、**場内の整理整頓や衛生面に関するルールを見直し**、ハード・ソフト両面で先取りした対応が望まれる。